

参考資料 1

R元.9.9 広島県医療審議会
保健医療計画部会資料から抜粋

4. 定量的基準の整理

～圏域意見等を踏まえた検討～

県の定量的基準の目的と運用について

- 地域医療構想は、各圏域ごとに医療需要を推計して2025年の必要病床数を定めており、その必要病床数と現状を比較しながら、「医療機関の自主的な取組」と「地域医療構想会議での協議」によって2025年に向けて次第に収斂されていくことを期待している。
- その際、現状を把握するための手段が、病床機能報告制度であり、地域医療構想調整会議における議論を活性化するため、抽象的な概念しかなかった病床機能の境界点を客観的にとらえようとするのが定量的基準である。
- 県の定量的基準は、あくまで各圏域の地域医療構想調整会議等で協議する際や、各医療機関が病床機能を判断する際に「参考」にしていたくもので、「強制」するものではない。
- 各圏域において、地域の実情に応じて、県の定量的基準の閾値を調整することや、新たな評価項目を追加することも想定している。
- 病床機能報告においていずれの医療機能を報告しても、診療報酬上の入院料等の選択等に影響を与えない。（厚生労働省「病床機能報告マニュアル」）
- 最も多くの割合を占める機能が「回復期」の病床であっても、医療資源の少ない地域や中小病院などでは、1つの病床で救急の役割を担っている実態を評価するため、「地域急性期（準急性期）」という医療機能を導入する。
- 県の定量的基準は、地域医療構想調整会議の意見や診療報酬の改定等を踏まえて、適宜、見直しを行うことを前提としている。

1. 報告対象期間について

- 病床機能報告においては、手術等の診療実績について、1ヶ月分(6月診療分)を報告することになっているが、季節によって患者数は変動するので、報告対象期間を見直すよう求めている。

(参考)

厚生労働省の「地域医療構想に関するワーキンググループ」において、各医療機関が担っている役割に関する重要な評価指標となり得る手術等の診療実績については、その報告対象期間を、現在の1カ月分(6月診療分)から、通年化するよう見直しが検討されている。

【見直し時期】 2021年度の報告から見直しを反映することを念頭に調整等の対応を進める。

2. 準急性期について

- 回復期病棟における“救急医療”の提供を評価する広島県独自の「準急性期」の区分を設定
 - ・ 病床機能報告と同様、「準急性期」の病棟を**広島県ホームページ**で公表することを想定。
 - ・ 「準急性期」については、**診療報酬上、実態に即した評価**を行うよう国に要望していく。
 - ・ 「準急性期」の病棟では地域の在宅や介護施設等から症状が急性増悪した患者を受け入れる機会(サブアキュート)を有することや、国への要望を他の都道府県と協調して行うことを視野に入れ、大阪府が使用している「**地域急性期**」に名称を統一してはどうか。

圏域意見等を踏まえた検討②

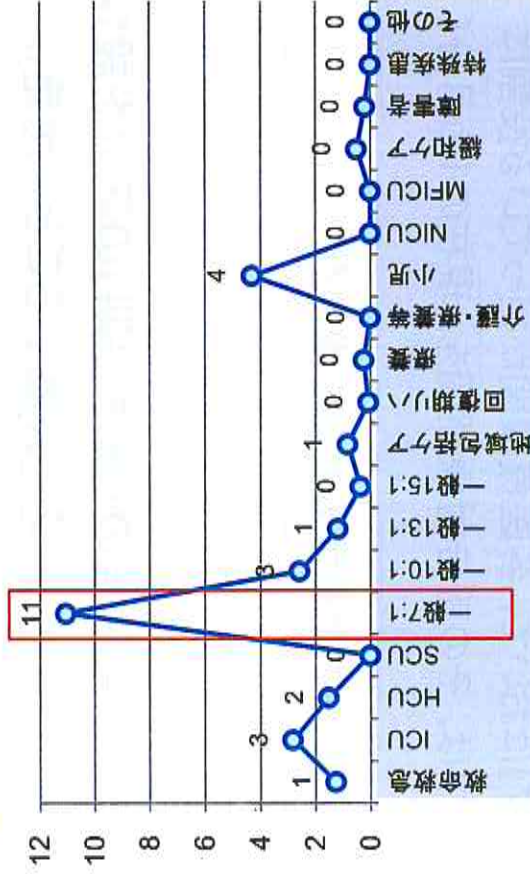
3. 内科の評価を補強

- 分析に用いる指標に「**化学療法**」を追加し、内科の評価を補強する。

【化学療法の“しきい値”の整理】

- 入院料単位で加重平均値を算出
 - 病棟の病床数が異なるため、50床換算・月当たりを算出
- 基準となる指標値を設定
 - 急性期／回復期の基準 … 一般病棟7:1の値を基準
 - 化学療法 11件
 - 高度急性期／急性期の基準 … 急性期／回復期の2倍
 - 化学療法 22件

化学療法



定量的な基準(再提案[化学療法を追加])

A: 具体の医療内容からの整理

【50床換算・月当たり件数】

- 手術総数 114回数
- **化学療法 22件**
- 救急医療管理加算 19件
- 呼吸心拍監視 45件

内科の評価を補強

※いずれか2つを満たしていること

【50床換算・月当たり件数】

- 手術総数 57回数
- **化学療法 11件**
- 救急医療管理加算 19件
- 呼吸心拍監視 45件

内科の評価を補強

※いずれかを満たしていること

地域急性期

- ②で回復期となった病棟のうち
救急医療管理加算の実績あり

④ 特にしきい値は設定しない。

B: 特定機能からの整理

- ・ 救命救急入院料(救命救急C)
- ・ NICU, PICU, ICUなどの治療室

- ・ 一般の産科病棟

現状の報告を基本

- ・ 小児入院医療管理料(病棟単位)
- ・ 病棟の実態に即して判断
- ・ 緩和ケア病棟入院料

- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料

- ・ 健診病棟

- ・ 療養病棟入院基本料
- ・ 特殊疾患病棟入院料
- ・ 障害者施設等入院基本料 など

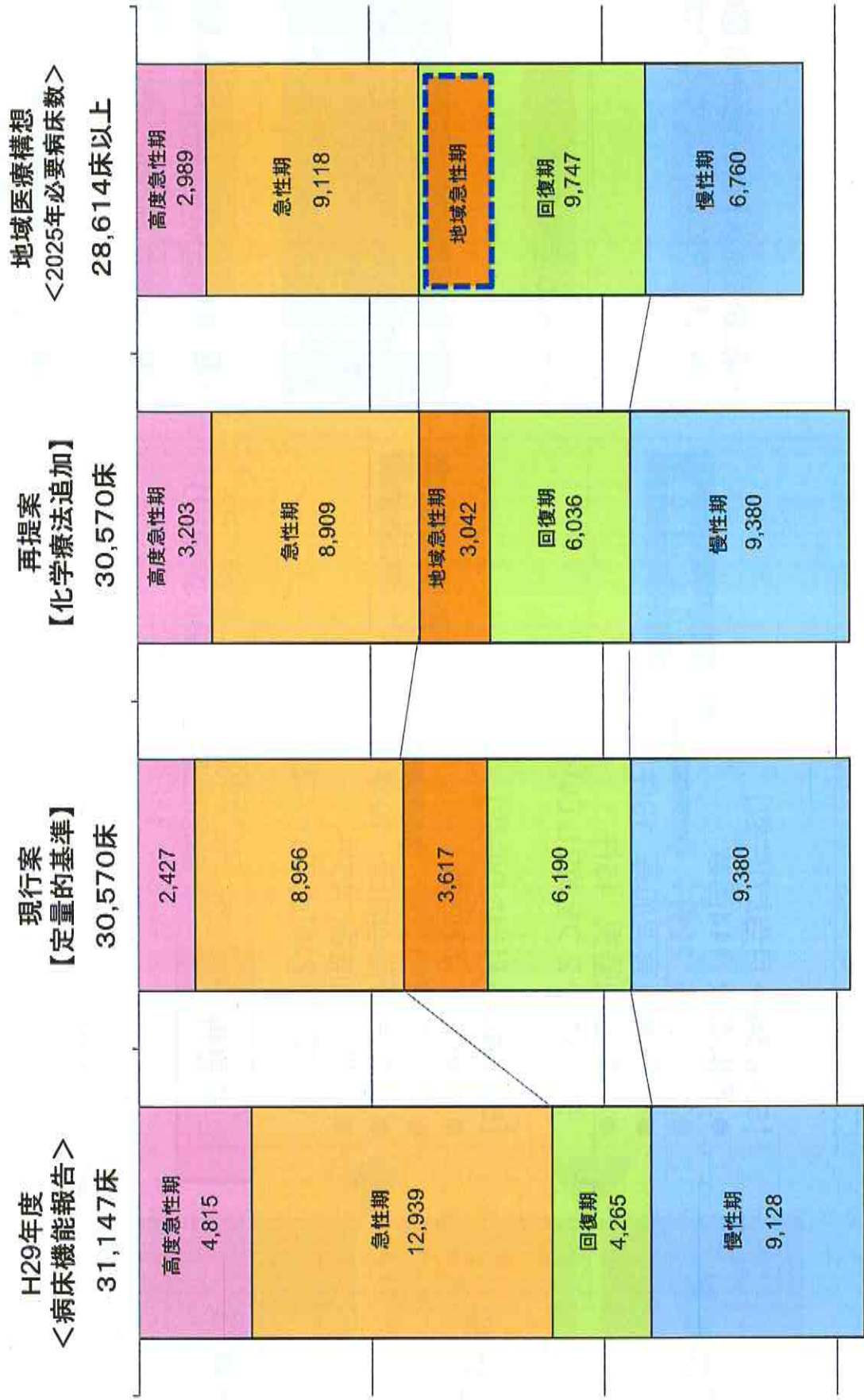
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

○ 病床機能別の試算 (有床診療所は報告どおり)



※ 休棟中等
(436床)除く

※ 休棟中等
(441床)除く
※ 子一々なく、
判定不能
(572床)除く

※ 休棟中等
(441床)除く
※ 子一々なく、
判定不能
(572床)除く